■藤原道綱母　　**歌人(女房三十六歌仙，中古三十六歌仙)。王朝女流文学の嚆矢「蜻蛉日記」の著者として知られる。**
ふじわらのみちつなのはは
高麗統一・・ 936＝　　この頃，藤原倫寧(冬嗣の曾孫)の娘に生まれる。
実名不詳。小倉百人一首では右大将道綱母とされるなど，様々に呼ばれる。

承平天慶乱終 941＝ 5歳：
父藤原倫寧は地方官を歴任，「蜻蛉日記」から，学識があって温厚な人柄であったことが窺われ，実直で忠勤な受領であったことが，藤原実資の「小右記」に記されている。母は，兄理能と同じ主殿頭春道の娘と考えられ，律儀な昔気質の人であったらしい。和歌，書道，琴，絵などに励み，
・・・・・・ 945＝ **9歳：**この年，紀貫之が死去しているが，

おそらく，自らの誕生の前年に成立の紀貫之の「土佐日記」によって文才が開花，

「尊卑分脈」に，当時の三美人の一人とあるくらいで，

・・・・・・ 954**＝18歳：*藤原兼家から求婚されて，妻の一人となる。この前後，兼家と多くの歌を交わし，その後も，様々な人との贈答を中心に，作歌多数。兼家との結婚生活の様子などを「蜻蛉日記」につづっているので，以下，その内容に従うことになる。**
・・・・・・ 955＝19歳：(兼家の次男になる)***道綱を出産。兼家が通い始めた町小路女の住まいを，兼家の後をつけさせて知り，一時，兼家を拒否。この頃の作品’なげきつつ ひとりぬる夜の あくるまは いかに久しき ものとかはしる’は小倉百人一首に採られ，人口に膾炙している。**
・・・・・・ 956＝20歳：兼家が来なくなり，一人で寝起きする状態に悲嘆。兼家が機嫌を取りに来るも苦悩。
呉越国返書・ 957＝21歳：町小路女が出産。兼家の度々の来訪に，歌を詠み交わすことはする。
・・・・・・ 958＝22歳：町小路女が零落し，その子も死去したことで，胸が晴れる。胸中を長歌に詠んで，兼家に渡す。
・・・・・・ 963**＝27歳：**兼家との関係が，ようやく良好になる。
・・・・・・ 964＝28歳：母が死去し，悲嘆。日記にも詳細に記している。

延喜式施行・ 967＝31歳：村上天皇が崩御，東宮が践祚して，兼家が蔵人頭になる。

安和の変・・ 969＝33歳：
・・・・・・ 970＝34歳：子道綱が内の賭弓に出場し，舞をして御衣を賜る。新邸に移った兼家が病臥などでしばらく来ず悲嘆，尼になろうと決意。
・・・・・・ 971＝35歳：兼家が近江を寵愛するようになり，ほとんど絶交状態に。
・・・・・・ 972**＝36歳：**子道綱の晴れ姿に感涙。権大納言になった兼家がたまに来訪し，関係が和らぐなか，兼家の旧妻である源兼忠女の娘を養女として引き取る。兼家が度々病気。子道綱の求婚の動きに，様々に支援。
・・・・・・ 975＝39歳：***この年の大晦日を最後に，「蜻蛉日記」の筆が途絶えていることから，この頃成立した作品とされている。**
以後，出世を続ける夫に省みられる事も少なく寂しい生活を送ったとも言われているが，子道綱の人気や出世も生きがいになったとも思われる。。
・・・・・・ 977＝41歳：伊勢守在任中の父が死去。

・・・・・・ 981**＝45歳：**

花山天皇出家 986＝50歳：兼家が摂政になった年の内裏歌合の時の歌は，「袋草紙」で，ほととぎす五秀歌の一つにされている。

道長内覧宣旨 995＝59歳：この頃，**_没した。**
「拾遺和歌集」以下の勅撰集に36首が採られ，清少納言らと共に女房三十六歌仙に，異腹の弟長能や子の道綱と共に中古三十六歌仙に選ばれている。家集に「傳大納言母上集」がある。兄理能は清原元輔の娘，すなわち清少納言の姉を妻に迎えており，「枕草子」では道綱母が詠んだ歌が紹介されている。姉は藤原為雅に嫁いだが，為雅の弟為信の娘は紫式部の母，妹は菅原孝標の妻となって「更級日記」の著者を産んだというように，後世の女流に深い影響を与えた元祖ともいえる存在になった。

明治書院「蜻蛉日記」，